

## 2026年度 総合型選抜試験(B日程) 法学部 法律学科 「出題の意図」

## 1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
16	8

## 2. 法律学科 アドミッション・ポリシー

法律学科では、法的思考能力(リーガル・マインド)を備え、現実の社会におけるさまざまな問題に対して、論理的かつ合理的に考え、柔軟かつ適切な解決策を導き出すことのできる人材の育成を目指しています。

そのため、高い志と正義感、忍耐力を備え、以下のような適性を持った意欲ある志願者を求めています。

- ① 社会の動きについて、幅広い関心と知識を持っている人
- ② 物事を柔軟かつ論理的に考え、自分の意見を的確に表現できる人
- ③ 多様な意見に耳を傾け、適切な解決策を導き出す努力ができる人

総合型選抜入学試験では、志願者の自己推薦ポイント(人間性、活動実績、将来への夢・希望など)が、これから法律学科で学んでいく上でどのような意義をもつかを、みなさん自身の言葉で明確に表現できることが望まれます。

## 3. 出題の意図

本問のテーマは、わが国の刑法における、「懲役」と「禁錮」の廃止と、「拘禁刑」の創設についてである。

懲役と禁錮は、受刑者を刑務所に収容する刑罰であるが、2022年6月の法律改正によって、この懲役と禁錮を廃止し、拘禁刑に一本化することになり、2025年6月から施行された。わが国において刑罰の種類が変更されるのは、1907年に刑法が制定されて以来初めてのことである。

拘禁刑については、賛成意見、反対意見があり、大きな議論となった。本問は、拘禁刑をめぐる議論について、日頃のニュース等を通じて把握しているかを問うとともに、それを踏まえたうえ

で、自分の意見を述べることができるかを問うことを意図している。

#### 4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

これまでのわが国の刑法では、受刑者を刑務所に収容する刑罰として、刑務作業が義務づけられる懲役刑と、刑務作業が義務づけられない禁錮刑が定められていた。しかし、懲役は刑務作業を行わなければいけないので、改善更生や社会復帰のために必要な指導を行う時間を取ることが難しく、禁錮は改善更生や社会復帰のために必要な作業であっても、本人が希望しない限り行わせることができないという問題点が指摘されていた。

そこで、2022年6月の法律改正によって、この懲役と禁錮を廃止し、拘禁刑に一本化することになった。拘禁刑とは、受刑者の改善更生を図るため、個々の受刑者の特性に応じて、改善更生・再犯防止のために必要な作業を行わせ、または必要な指導を行うことができる刑罰である。これによって、従来の懲役、禁錮のような画一的な対応ではなく、個別的な対応・指導をすることが可能となり、受刑者の改善更生・再犯防止につながると期待されている。

しかし、各受刑者への個別的対応を行うことにより刑事施設職員の負担・コストが増大する、被害者の救済を差し置いて受刑者にそこまでの配慮をする必要があるのか、といった点が指摘されており、賛否両論がある。

以上のような議論を踏まえたうえで、拘禁刑について、自分の意見を述べてもらいたい。

## 2026年度 総合型選抜試験(B日程) 法学部 地域行政学科 「出題の意図」

## 1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
10	7

## 2. 地域行政学科 アドミッション・ポリシー

地域行政学科は、法律・政治・行政分野の学びを通して、より深い見識と広い視野を身につけ、将来的に地域社会のリーダーとしてその発展に貢献できるような人材になりたいという強い意欲を持つ志願者を求めます。そして、このような志願者を受け入れるために、特に次の点を重視します。

1. 地域社会の出来事や国内外の情勢に強い関心を持ち、地方自治体および民間企業のなかで地域社会の発展のために貢献していこうとする強い意欲や希望、自らの将来計画、更には行動力を有していること。
2. 地域社会の抱える課題を発見し、これまで学んできた知識をもとにその解決策を論理的に考えることができること。
3. 課題解決に取り組む際に、まずは自分自身の考えを持ち、そして他者との意見交換を通して議論を発展させ、一定の成果を挙げることができること。
4. 様々な価値観を持つ他者に対して自ら働きかけ、他者と協働して目標を達成した経験を有していること。
5. 国語や社会の科目について、現代社会の課題を発見し解決する能力を向上させるうえで前提となる知識や読解力・文章力といった、高等学校で身につけるべき基礎的学力を有していること。

## 3. 出題の意図

今日、ほとんどの高校生にとって SNS はごく身近なコミュニケーション・ツールだといえる。また、昨年7月に参議院選挙、今年1月には衆議院選挙が相次ぎ実施され、実際に投票に出向いた受験生もいたことと思う。

SNS と選挙に関しては、SNS の利用により若年層の投票率の向上が期待できるといった肯定的な意見がある一方、真偽不明の情報によって選挙結果が大きく左右されてしまうなどのマイナス面を懸念する声もある。

受験生には、SNS 利用が投票行動および選挙結果に及ぼす影響などについて、日頃から考えていることを述べていただきたい。

## 2026年度 総合型選抜試験(B日程) 経済学部 経済学科 「出題の意図」

## 1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
18	6

## 2. 経済学科 アドミッション・ポリシー

経済学科は、地域の自立および国際社会の発展に寄与するという教育研究目標のもと、社会人として諸問題を解決していくために求められる基本的な資質である「知識」、「考察力」、「表現力」を有する人物の育成を目指し、以下のような人物を求めます。

1. 経済を含む地域および国際社会の諸問題に強い関心がある人物
2. それら諸問題の解決策を導き出すための幅広い知識獲得に意欲がある人物
3. それら諸問題について論理的かつ主体的に考察をし、行動する意欲がある人物
4. 経済学や関連する諸分野の専門知識を応用し、社会において活躍することを望む人物
5. 経済学や関連する社会科学分野を学ぶために必要である高等学校卒業程度の基礎学力を有する人物

## 3. 出題の意図

出題の意図は、最新の最低賃金引き上げという具体的・時事的テーマを通して、沖縄の地域経済の実情を理解し、事業者と労働者の双方の立場から影響を多面的に捉え課題を分析し、自らの意見と対応策を論理的に示す力があるかどうかを確認することにある。具体的には、① 時事的テーマに対する理解力・関心があるか(「初の1,000円台」「過去最大の改定」の社会的インパクトを認識できるか)、② 沖縄の地域特性(観光業中心、中小零細企業の多さ、1人当たり所得の低さ、貧困問題等)の理解があるか、③ 多角的な思考力(事業者・労働者双方の視点)があるか。例えば、事業者側からみた人件費増による経営圧迫、価格転嫁の難しさ、労働者側からみた生活向上への期待、雇用への不安などの両面を整理して論理的に考察できるか等を確認することにある(以上は、アドミッションポリシー1~5全てに関係あり)。

## 4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

上記①~③に関して具体的に論述できているかが評価のポイントになる。日頃から地元の新聞を読む習慣を身につけることをお勧めする。

## 2026年度 総合型選抜試験(B日程) 経済学部 地域環境政策学科

## 「出題の意図」

## 1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
11	3

## 2. 地域環境政策学科 アドミッション・ポリシー

地域環境政策学科では、経済の視点から地域と環境を考えることを通して、環境に配慮しながら地域経済の発展に貢献し、持続可能な社会を創造できる人材の育成を目指しています。

そこで、本学科では、次の1~4について自らの言葉で説明できる志願者を求めています。

1. 沖縄及び世界の経済や環境の問題、政策に広く関心がある人
2. 沖縄の過去・現在・未来に関心があり、地域社会へ貢献したいという熱意のある人
3. 社会で起きている様々な事柄に関心を持ち、フィールド(現場)に出て、積極的に活動することが好きな人
4. 大学の授業に耐えうる基礎学力を有し、勉学に対する意欲がある人

## 3. 出題の意図

受験者が自らの生活圏をどれだけ主体的に捉え、課題を発見し、解決に向けて思考できるかを測る点にあります。身近な地域を素材とすることで、具体的な経験や観察に基づく論述力、社会への関心、他者や環境との関わりを考える姿勢を確認することを目的としています。また、課題提示から解決策の提案までを一貫して構成する力を評価します。

## 4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

地域の課題は、特別な知識がなくても日常の中に多く見つけられます。まず自分の経験や身近な出来事を振り返り、「なぜそれが課題だと思うのか」を明確にすることが重要です。そのうえで、原因や背景を整理し、実現可能で具体的な解決策を示すと説得力が増します。体験談に加え、客観的な視点を交えて論理的に構成することが重要です。

## 2026年度 総合型選抜試験（B 日程） 産業情報学部 企業システム学科

## 「出題の意図」

## 1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
15	11

## 2. 企業システム学科 アドミッション・ポリシー

企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指し、「マーケティング」「経営」「会計」の3分野を柱に専門的、体系的に学んでいきます。よって、本学科では以下のような志願者を求めます。

1. ビジネスの専門的・体系的な学びを通じて自分自身のスキルや能力を鍛えるために必要となる、基礎的学力と教養を身につけている人物。
2. 企業システム学科で学びたい事を自覚し、それを具体的に表現できる人物。
3. ビジネスの課題を発見しそれを解決へ導くために、思考力と判断力を発揮して、自分の意見を的確に説明できる人物。
4. ビジネスへの深い探究心と広い好奇心、そして大学卒業後のビジョンを抱き、地域・国際社会に貢献する意欲を有する人物。
5. 自分自身が主体的に取り組んできたことや、周りの人たちと協力して取り組んできたことが、大学で学びたいことと結びついている人物。

さらに、多様な資質を有する学生を総合型選抜によって受け入れ、その資質を開花させるために必要な教育を通して将来のビジネス社会で活躍できる人材育成を行います。総合型選抜では、上記の5項目に加えて、他者に誇れる活動や実績等を背景とした、卓越した知識や考え、意見を持っている人物を求めます。

## 3. 出題の意図

企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指している。この小論文の出題の意図は、そうした人材の育成を目指す本学科での学修にあたり、必要な能力を、受験生がどの程度持っているかみることにある。今回は、沖縄県の最低賃金の引き上げがもたらす企業、従業員、消費者への影響を、加えて沖縄県の最低賃金が他の都道府県と比べ低水準にある現状を、どこまで深く考察できるのかを問うた。こ

の問いを通じて、現代におけるビジネスのあり方を、公民科で学んだ内容も踏まえてどれだけ理解しているのか、そして課題解決に向けて、どこまで深く思考できるのかをみようとした。

#### 4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

この小論文では、まず、基礎的な教養がどの程度あるかをみている。ここでいう教養とは、国語の学力に加え、社会一般に対する普段からの関心の広さと深さを表す。次に、論点を整理して、論理的に表現できているかをみている。最後に、社会の問題を他人事としてではなく自分のこととして主体的にとらえ、解決しようとする意欲が伺えるかをみている。

## 2026年度 総合型選抜試験(B日程) 産業情報学部 産業情報学科 「出題の意図」

## 1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
16	6

## 2. 産業情報学科 アドミッション・ポリシー

産業情報学科は、産業経済および情報科学・技術の基礎および専門領域における実学的な知識を習得し、高度情報化社会を牽引する国際的なスペシャリストの育成を目指します。また、「情報」「経済」「語学」の3分野を専門的、体系的に学び、さらに地域ないしグローバルビジネス分野で活躍できる人材を育てていきます。具体的には次の能力・人材を養成・輩出していきます。

1. ビジネス・産業・経済の課題を分析し、地域や国際社会に対して解決に向けた提言ができる能力・人材
2. 総合的な情報技術を習得し、高度なプログラミングおよびシステム設計を学んだ上で、デジタルコンテンツのデザインやマネジメントを推進できる能力・人材
3. 異文化を理解し、グローバルなビジネス現場で必要な対話力・実務力・課題解決力を有する人材
4. 「情報」「経済」「語学」の知識を応用し、自らの社会的責任を自覚し地域で積極的に貢献できる能力・人材

上記の人材・能力を養成・輩出するために下記のような志願者を求めています。

1. 「情報」「経済」「語学」など実学に幅広く興味・関心があり、それらを深く学びたいと思う態度や、それらを学ぶ上で基礎的な知識・学力を身につけている人物
2. 産業情報の知識を科学的・論理的に学び国際社会や地域の課題を解決する能力や日本語・外国語についての基礎的な知識やコミュニケーション能力を身につけている、あるいはそれらをさらに学ぶ意欲のある人、研鑽しようと努力する人物
3. 大学生活で自ら進んで深く学ぼうと努め、学生・教員の間で互いの価値観を認めつつ協働して勉学に励みコミュニケーション能力を身につけた人物

さらに、総合型選抜では、上記の3項目に加えて、以下の項目を掲げ学力だけでは測れない多様な資質を有する志願者を求めています。

1. 情報技術、またはスポーツ文化活動、語学、ボランティア活動などにおいて他者に誇れる実績などを有している人物
2. 産業情報学科で学びたいことを明確にアピールできる人物
3. 大学卒業後の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人物

### 3. 出題の意図

小論文の出題テーマは、『あなたが身近に感じている「変化」についてとりあげ、その変化があなた自身や社会にどのような影響があるのか論述しなさい』である。

小論文試験は、以下の出題意図に基づいている。

- ① 日頃から自分を取り巻く事象の変化について関心を持っているかどうか、またその変化が自分自身や社会にどのような影響があるのか自分なりに考えているのかを確認する。
- ② 出題テーマにそって自らの見解を論拠を示して明瞭に記述しているかどうかを確認する。
- ③ 小論文について、基本的な事項をふまえて記述しているかどうかを確認する。

### 4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

産業情報学科への出願ということもあり、「変化」について情報技術、AI の発展について取り上げる受験生の皆さんが多い状況でした。急速な AI の発展により、自分や社会にメリットもありますが、課題も少なくないこと、AI リテラシーを高めることなどを指摘している点が評価されます。大学に入学した場合も、AI をどのように生活や学習、さらに社会に活かしていくのか考えることが重要になります。

## 2026年度 総合型選抜試験(B日程) 総合文化学部 日本文化学科 「出題の意図」

## 1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
13	7

## 2. 日本文化学科 アドミッション・ポリシー

日本文化学科は、日本文化及び琉球沖縄文化への造詣を深めることを教育上の目的としています。具体的には、言語・文学を中心とする理論的、かつ実践的な教育を通して、国際社会、情報社会、地域社会の中で自己の役割を深く認識し、生き生きと実践できる人材、そして、豊かな知性、分析力、情報処理能力、表現力、コミュニケーション能力、共生能力を備えた人材を育てていきます。

日本文化学科は、以上の学科の教育目標と沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーに照らし、次のような志願者を求めます。

1. 言語・文学を中心とする日本文化及び琉球沖縄文化、またグローバル時代に求められる多様なコミュニケーションについて主体的に学ぼうとする意欲・関心をもつ人
2. 1の学びを深めるための基礎学力をもつ人
3. 地域社会、国際社会、多文化社会、高度情報社会の中で生じるさまざまな課題を解決するために必要となる、基礎的な思考力・判断力・表現力を身につけている人

総合型選抜では、上記の3項目に加えて、基本的な学習習慣をもち、当学科の専門領域の学びを通して社会貢献を目指す志願者を求めます。

## 3. 出題の意図

総合型選抜(B日程)において、日本文化学科ではアドミッション・ポリシーに基づき、思考力・判断力・表現力等を測るための論述式の試験問題を出題しています。論述のテーマは、「日本文化」「琉球文化」「多文化間コミュニケーション」の3つの専門領域に関わるものです。今年度は日本文化に関する問題を出題しました。問1は要約問題、問2は意見文問題となっています。いずれも、アドミッション・ポリシーの3にある、「基礎的な思考力・判断力・表現力を身につけている」かどうかを評価するための問題となっています。

#### 4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

問1（要約問題）では、課題文の内容を理解し、その要点を文脈に沿ってあるいは適切な論理展開で整理できているかという点を評価します。今回の出題では、筆者が日本社会を「ダブルスタンダード」と評している点に注目し、その論旨を過不足なくまとめられているかどうかを評価のポイントとなります。

問2（意見文問題）では、筆者の主張をふまえながら、適切な論拠に基づいて自身の考えを述べられているか否かが評価のポイントとなります。筆者が主張する日本社会の「ダブルスタンダード」は現代の人々の価値観の根幹と捉えられます。そのような日本社会の状況に対する自身の意見や考えを、具体的なエピソードを示しながら論述できると良いです。

## 2026年度 総合型選抜試験(B日程) 総合文化学部 英米言語文化学科

## 「出題の意図」

## 1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
9	3

## 2. 英米言語文化学科 アドミッション・ポリシー

英米言語文化学科は、沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーおよび学科の教育目標に照らし、以下のような志願者を求めます。

1. 英語圏の言語・文化に強い関心を抱く人
2. 高い英語力の習得に主体的・自律的に取り組む意欲のある人
3. 英語を通じて日本と世界をつなぐグローバルな志を持つ人
4. 共に学ぶことの意味と意義を考え、よりよい学びのために他者と協働できる人
5. 多言語・多文化理解に必要な基礎的学力を持つ人（総合型選抜:英検 2 級、CEFR B1 程度の英語力を持つ人）
6. 他者とのコミュニケーションを通して、望ましい人間関係の構築を図れる人
7. 多文化共生社会において諸問題の解決に求められる基礎的な思考力・判断力・表現力などを有する人

## 3. 出題の意図

英米言語文化学科は、世界の人々対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指している。したがって、この学科の入学希望者には他者とのコミュニケーションを大切に、理想的な人間関係の構築と英語力の向上に積極的に努力する人物を求めている。

次の英文は、生涯学習について述べたものである。解答者には、英語の語彙力だけでなく、文章全体の構成や段落のつながりを理解し、それぞれの段落の要点を整理し、日本語で簡潔にまとめる力が求められる。

## 4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

特になし。

## 2026年度 総合型選抜試験(B日程) 総合文化学部 人間福祉学科社会福祉専攻

## 「出題の意図」

## 1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
6	6

## 2. 人間福祉学科社会福祉専攻 アドミッション・ポリシー

社会福祉専攻では、以下のような志願者を求めています。

- I. 将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分であると認められる人物。
- II. 社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有し、大学での勉学や将来において活用が期待できる人物。
- III. 将来、アジアや太平洋地域をはじめとする国際的な場における支援活動に参加することを熱望する人物。

また、上記のいずれかに該当する学生を募集する上で、各種入学試験では次のような点を具体的な評価の指標とします。

1. 社会福祉の専門的な役割等について、的確に説明することができる人物か
2. 大学で学びたいことと自分自身の将来像とのつながりについて、的確に説明できる人物か
3. 国内外の社会問題、生活問題等について強く関心をもつ人物か
4. 社会参加および社会貢献に対して、意欲や積極的な姿勢をもつ人物か
5. 社会福祉を科学的に学ぶ(他者の声を聞き取り、要点を整理し、記述する)ための基礎的学力を有する人物か

## 3. 出題の意図

「生きづらさ」を抱える当事者を「支援」するにあたって必要とされることが何かを一概にいうことはできない。「生きづらさ」のありようはさまざまであり、その本質もさまざまに考えることができる。また、「支援」すべきことは、支援の対象や主体が誰かによっても異なることもあるだろう。したがって、この課題にとりくむにあたっては、出題文において要求されていなかったとしても、

「生きづらさ」や、「支援」の対象や主体をいくつかに分けて、多面的に検討することが必要不可欠である。生きづらさのタイプや、支援の対象や主体が違っていても共通して必要とされると考えられることは何か、違いに応じて必要とされると考えられることは何かを、自分なりに整理して、自分の考えを論理的に展開できることが望まれる。

2026年度 総合型選抜試験(B日程) 総合文化学部 人間福祉学科心理カウンセリング専攻  
「出題の意図」

### 1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
7	3

### 2. 人間福祉学科心理カウンセリング専攻 アドミッション・ポリシー

人間福祉学科心理カウンセリング専攻は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通り具現化し、人間のこころに関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人物を求めます。

- 1.人間の「こころと行動」と「人と人とのつながり」について科学的視点から学ぶ意欲と関心を持つ人物。
- 2.これまでに意欲的に取り組んできた活動や得意分野を大学での学びに結びつけ、さらに、心理学の知識や技術を今後のキャリア形成や日常生活に実践的に応用したいという真摯な態度を持つ人物。

### 3. 出題の意図

今回出題した問題は、アドミッション・ポリシーの1項目目に該当する資質を確認することを目的としています。「感情」は、誰にとっても身近なものでありながら、人のこころや行動に深く関わっています。そうした「感情」というテーマにきちんと関心をもっているか、また、日常生活の中で自分の感情とどのように向き合い、どのように制御してきたかを振り返り、それを自分の言葉で論理的に記述できるかを評価しています。

### 4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

評価のポイントは、①自分がどのような状況でどのような感情を抱くのか、②生じた感情にどのように対処・調整しているのかについて、具体的に記述されているかという点です。あわせて、小論文としての基本構成(序論・本論・結論)が守られているか、および正確で適切な日本語表現が用いられているかも評価しました。

アドバイスとしては、日頃から自分の「気持ち」や「感情」に関心を持ち、自身のこころと向き合う習慣を身につけること、また、自分のこころの状態を言語化する練習を重ねることをお勧めします。